

総括質疑

機関 善高議員

福祉でまちづくりの推進について

問①

高齢化が進む中、お互い顔を合わせ支え合える地域活動が重要と考えます。各地域の老人クラブは加入者減少により活動が休止しているところもありますが、老人クラブの活性化にどのような形で支援していくのか伺います。

答①

久保 弘志町長

高齢期を安心して暮らしていくためには、健康で自立し、身近な仲間と支え合いながら地域活動をしていくことが大切であり、老人クラブの果たす役割は非常に大きいものと認識しております。老人クラブが解散しても別の組織となつて活動している地区もあります。ことから、地域の考え方を尊重し、自治会等のご協力をいただきながら、行政としてできる支援を継続していきたいと考えています。

鬼塚 茂議員

農業の持続的な発展について

問①

近隣市町ではシロシストセンチュウの発生が発表されていますが、本町の今後の対応について伺います。

答①

久保 弘志町長

シロシストセンチュウ(GP)発生範囲を特定する土壤検診を抽出方法で実施し、本町での発生は確認されませんでした。まずは農業者の皆さまに土壤が移動しないようまん延防止策を徹底していただきたいと考えています。また、GPの発生は耕作者一人が責任を問われるものではなく、地域における助け合いや適正な輪作体系の維持確立が、発生が確認された場合でも営農の継続につながるものと考えております。ことから、JAをはじめ関係機関や近隣市町とも十分連携を取りながら、対応していきたいと考えています。

問②

農畜産物の産地化・差別化について具体的にどのような考えか伺います。

答②

久保 弘志町長

日本の農業がかつてない自由化の時代を迎えている中、今後も小清水の農業が未永く発展していくためには、耕畜連携とゆう水を活用した循環型農業を継続的に推進していく必要があります。この土づくりが本町の強みであり、産地化・差別化につながると考えています。

ブランド化の例として、でんぶんの高付加価値化ではほかじややでんぶんの小袋化があり、今後、高校跡地では小麦の製粉化とその活用を考えております。また、広域では大空町のビーンズファクトリーなどによってオホーツク農業のブランド化が図られていると認識しています。

さらには、アスパラやプロックリーなど高収益作物の振興や施設園芸による特産物の開発、小清水和牛の振興などが産地化・差別化

公共施設等の整備について

問①

町民の安全・安心を確保する防災拠点型複合庁舎に「にぎわいの空間」を兼ね備える計画が進んでいます。建設・運営に当たっての町長の考えをお聞きします。

瓜田 新一議員

また、現状の在宅サービス等の関係では、介護保険による訪問介護やデイサービス、赤十字病院の訪問看護などがありますが、今後の対策として、有償ボランティアなどによる地域で支える支援体制の構築や町の相談機能の充実、また、医療機関や障がいサービスの利用では広域的な連携など、本町の施設だけではなく近隣市町との連携もとりながら、しっかり支える体制を構築していきたいと考えています。

につながるものであり、小清水農業が未永く営まれるような支援をしていきたいと考えています。

高齢者が安心して生活が送れる環境づくりについて

問①

要介護の初期症状の高齢者を把握しきれいていない部分があるように思いますが、町長の考えをお聞きます。

答①

久保 弘志町長

独居等の老人の方が多くなつてきている現状では、その把握においても在宅サービスの向上と見守り体制の構築にしっかりと取り組まなければならないと考えています。本町において見守りが必要な世帯は概ね140世帯と把握しており、胆振東部地震のブラックアウトの際も、この世帯すべて見回した経過がございます。さらに大きな災害になると自治体のみでは対応が困難な部分もありますので、地域には自主防災組織づくりをお願い

問②

行財政改革大綱に基づき、平成28年に各出張所が廃止され、これによりコスト削減と行政サービスの効率化が図られたとされていますが、小さな出張所の廃止によるコスト削減と現在進んでいる大型プロジェクトの兼ね合いをどうお考えですか。

答②

久保 弘志町長

人口減少に適切に対処するためには、ある程度コンパクトなまちづくりが必要であり、小さな町、地域が生きて延びるには、地域の皆さんが支え合いながら絆を大切に作る地域コミュニティの活性化を図ることが何より大切であり、元気なまちづくりに繋がると考えています。

小さなものを削って大きなものを建てるのかというご意見はあるのかと思いますが、大型プロジェクトの推進は、新たな雇用を生み、特産品の開発につながるから、本町の農業振興のための拠点として整備するものでござりますのでご理解いただきたいと思います。

行財政改革の推進について

問①

小清水町行財政改革大綱には「簡素で効率的な行政運営の実現と、経費の節減及び合理化を推進する」とうたっていますが、複合庁舎やにぎわい空間、また旧高校跡地を利用した農業振興拠点施設

答①

久保 弘志町長

基本・実施設計にあたる設計業者も決まり、これから「にぎわいの空間」の整備や運営の議論を本格化していきますが、基本計画にあるようにフィットネスやコインランドリーなどは、日常時でも非日常時でも使用できる一時避難所的な機能を持たせにぎわいを作っていく考えです。管理運営は商工会を中心とする主体を担っていただきたいと考えていますので、今後商工会と具体的に検討を進めていきますが、地元の運営主体を組織していただいて、民間の専門的なノウハウを取り込みながら経営にも配慮して進めていきたいと考えています。

など大型プロジェクトの推進と、行財政改革との整合性はどのようにするか。

答①

久保 弘志町長

人口減少によって財政規模も縮小していく必要がある中で、行財政改革については常に検討していかなければならないという考え方はありますが、単に削っていくというだけではなく、効率化することに重点をおいて住民サービスの向上につなげていくべきだと考えています。

その中で、複合庁舎については、公共施設等総合管理計画に基づいて公民館や保健センター機能を集約し、コンパクトに建てるという考えです。

また、高校跡地の農業拠点については新たな施設ではありませんが、町が直接管理する施設は縮小していくという考えを基本に、管理運営は設立する新たな法人に担っていただきながら、発生する町の費用負担は農業振興の観点から必要な費用であると判断しています。